



トチノキ (栃の木)

盛岡森林管理署 森林技術指導官 松尾 亨

花を求めて日本を南から北へ旅をする仕事があるなんて知ってます?・・・九州からレンゲ・ニセアカシヤ・トチ・シナなどの開花とともに北上し、ミツバチとともに暮らす「養蜂家」です。今回は採蜜となじみ深いトチノキを紹介します。

分布は北海道から九州ですが東北地方に多く、溪流沿いの湿潤で肥沃な土壌を好み、直径1m樹高30m以上の高木になり カツラやサワグルミと溪畔林を形成します。葉は掌状複葉で小葉は長卵形で5~7枚、花は5月下旬ころから円錐の花序で白い花を付け、雄しべは4枚の花弁より外に出ます。この時期は、ほのかな甘い香りを発散しマルハナバチやアブ、蝶や甲虫類も吸蜜におとすれ賑やかです。秋に結実する実も大型で13gほどになり、翌春の芽生えも

50cmくらいになります。セイヨウミツバチによる採蜜は、好天気なら巣箱から3kmほど飛び、雨の日や寒い日は蜂の能率が下がります。栃の実にはサポニンなどの成分がありそのままでは食べられませんが、灰汁によるあく抜きと水さらしの後粉にして、トチ餅など救荒植物として役立つようになりました。そのことから各地に「栃」の沢名が残っています。

パリではセイヨウトチノキを「マロニエ」と呼び街路樹として親しまれているそうです。盛岡にもトチノキの街路樹がありますが、そのなかに交配種のベニバナトチノキがあり色鮮やかな花も楽しめます。でも、秋には頭上注意! 立春も過ぎ養蜂家と蜂たちはそろそろ旅支度の始まりですね。



満開 花の大きさを標識と比較



トチノキ花



ベニバナトチノキ花



芽生えと稚樹



トチ蜜